

# えびの市教育研究センター

|      |                    |        |
|------|--------------------|--------|
| I    | 研究主題と副題            | 1-2-1  |
| II   | 主題設定の理由            | 1-2-1  |
| III  | 研究目標               | 1-2-1  |
| IV   | 研究仮説               | 1-2-1  |
| V    | 研究の全体構想            | 1-2-2  |
| VI   | 研究組織               | 1-2-2  |
| VII  | 研究内容               |        |
| 1    | 本研究における概念規定        | 1-2-3  |
| 2    | 確かな学びが身に付く指導の在り方   |        |
| (1)  | 板書と発問に関わる教職員の実態    | 1-2-3  |
| (2)  | 構造的な板書の在り方         | 1-2-4  |
| (3)  | 発問の開発              | 1-2-5  |
| (4)  | 板書と発問を関連させた授業計画    | 1-2-5  |
| (5)  | 検証授業Ⅰ              | 1-2-6  |
| 3    | 確かな学びを生かす活用の在り方    |        |
| (1)  | 全国学力調査結果分析による実態把握  | 1-2-7  |
| (2)  | 確かな学びを生かす活用する力の具現化 | 1-2-8  |
| (3)  | 検証授業Ⅱ              | 1-2-9  |
| VIII | 成果と課題              |        |
| 1    | 成果                 | 1-2-10 |
| 2    | 課題                 | 1-2-10 |
| ○    | 引用・参考文献            | 1-2-10 |
| ○    | 研究同人               | 1-2-10 |

## I 研究主題と副題

確かな学びを生かし、将来の郷土「えびの」を担う人財の育成（1年次）  
～国語科、算数・数学科におけるえびの授業スタイルの確立を通して～

## II 主題設定の理由

激しく変化する社会において、学校教育が果たす役割はますます大きくなっているといえる。「社会で求められる力」として、「問題解決能力」「継続的な学習力」「主体性」「チームワーク力」が挙げられる。これらの求められる能力は、学校教育において、従来の学習スタイルでは十分に身に付けられていない現状も見られる。また、求められる能力が、児童・生徒にとって必要であると実感できる場面も十分に与えられていないともいえる。

えびの市は、県西部に位置し、熊本県と鹿児島県に接する宮崎県の玄関であり、九州自動車道の分岐点もあり、他県の人々との交流が多い場所である。また、自然豊かな環境があり、多くの観光客も訪れている。一方、少子化や高齢化に伴い、将来を担う人財の育成は早急の課題ともいえる。本市においては、平成25年度より研究主題を「確かな学力の定着と地域に貢献する人材の育成」と設定し、研究に取り組んできた。この研究を通して、児童・生徒が生まれ育った地域に目を向け、本市の様子やよさに関心を持ち、語れる児童・生徒の育成を図り、スピーチ活動のよさを実感させる等の成果を上げてきた。また、総合的な学習の時間において、小中学校9年間をとおして、本市のよさを知り、自分なりに考えを深め、意見を伝える児童・生徒の育成を目指す「えびの学」の推進にも取り組んでいる。

そこで、研究主題を「確かな学びを生かし、将来の郷土『えびの』を担う人財の育成」と設定し、確かな学びにつながる指導方法の在り方を明らかにし、将来のえびの市において、郷土をよりよく発展させようとする意識や活用する力を備えた児童・生徒の育成を図ることとした。「えびの学」における郷土への知識・理解の習得にとどまらず、相手意識をもって伝えたり、相手に合わせた表現方法を考えたりすることができるように、児童・生徒が身に付けた学力を活用することができる姿を目指すこととした。

本研究においては、基本的な学力が定着するための具体的な指導方法を究明することで、指導力の向上と安定化を目指す。これにより、児童・生徒の理解力を高めるとともに、協働的に思考を深めたり、学習したことを活用することの楽しさを味わったりすることをとおして、確かな学びと活用する力の育成を図ることができると考えた。将来のえびの市において、身に付けた力を生かして、喜びを感じながら地域に貢献できる人財を育成することは、本市が目指す「徹底した学力の向上・地域に貢献する人材の育成」の実現に向けて意義あるものであると考える。

## III 研究目標

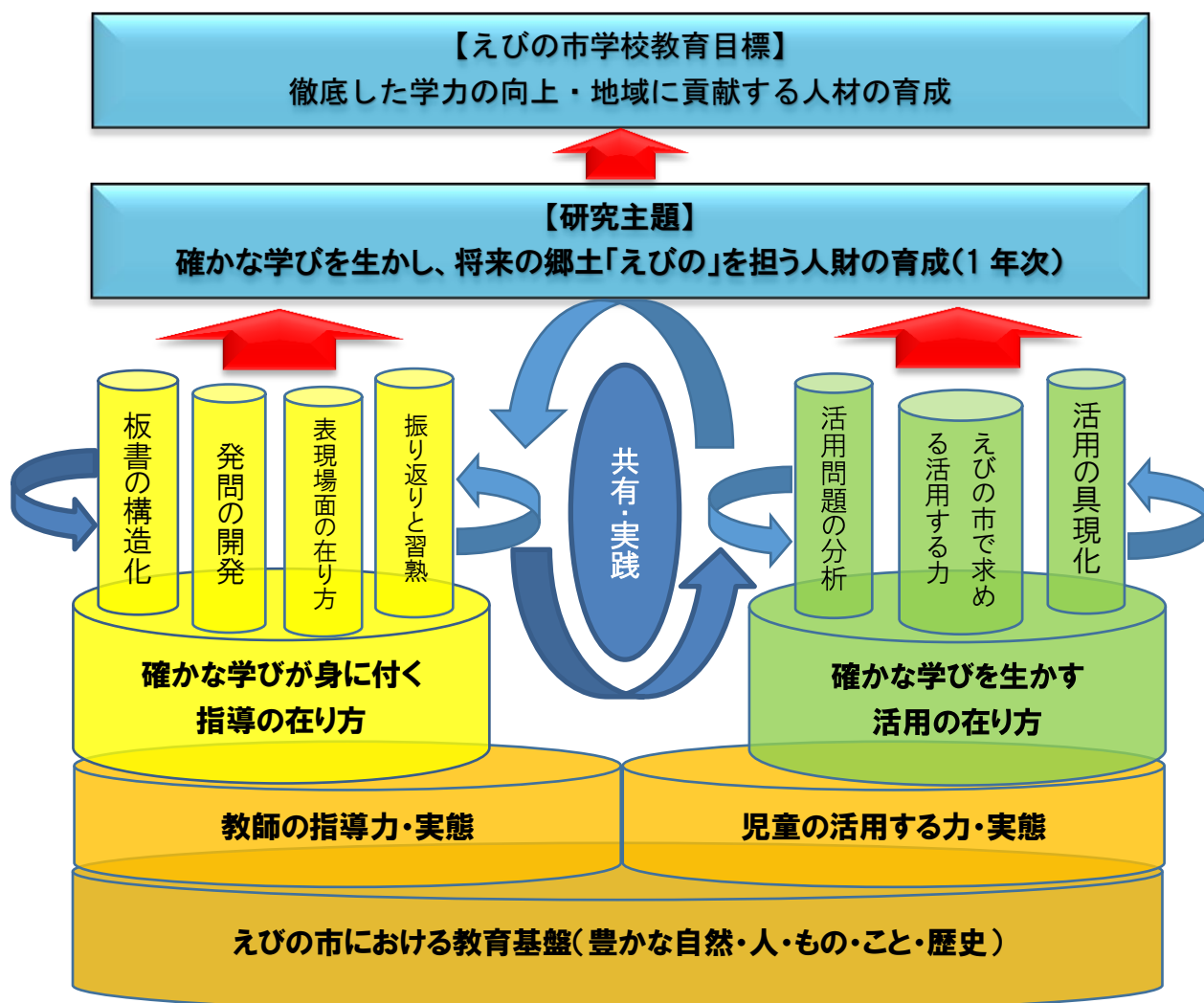
えびの市における児童・生徒の学力・学習状況及び授業改善を図るための課題を把握し、基本的な学力が定着するための板書や発問の効果的な方法と活用する力を高める授業の在り方について究明する。

## IV 研究仮説

国語科、算数・数学科の指導において、構造的な板書や思考を促す発問の効果的な方法に改善し、活用する力の共有化や具現化を図れば、児童・生徒は、身に付けた確かな学力をもとに、活用する力を伸ばし、郷土「えびの」を担う人財に相応しい力を身に付けることができるであろう。

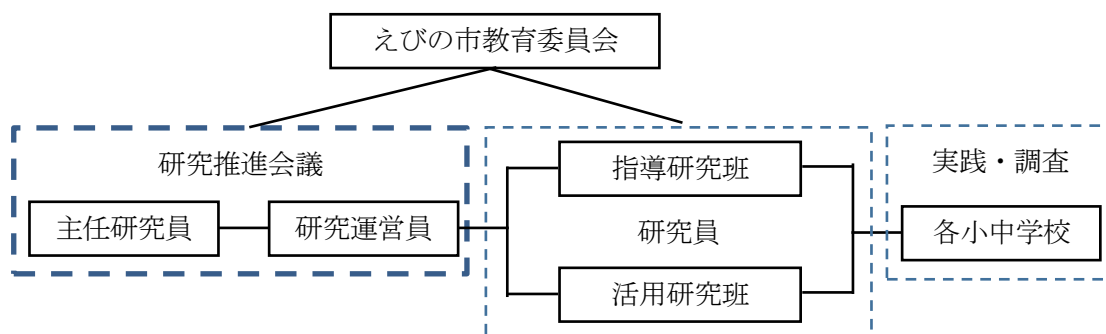
## V 研究の全体構想

本年度は、3ヶ年計画の1年次である。確かな学びが身に付く指導の在り方における「表現場面の在り方」「振り返りと習熟」については、2年次以降から研究を進めていく。



## VI 研究組織

えびの市教育委員会とえびの市教育研究センターの研究員で構成し、実践及び調査については、えびの市内の各小中学校と協力し、研究を進める。



## VII 研究内容

### 1 本研究における概念規定

|                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ア 研究主題について                                                                                                                                                                    |
| 【確かな学びを生かす】<br>当該学年で身に付けておかなければならない知識・技能を用いながら、学習や実生活での課題解決において、自らの力を進んで発揮している姿                                                                                               |
| 【将来の郷土「えびの」を担う人財】<br>児童・生徒が生まれ育ったえびの市の今後について、考えたり貢献したりする人材を指す。特に「人財」としているのは、将来のえびの市において、地域を活性化させたり、貢献したりできる貴重な「財(たから)」であることを強調している。また、第二次県教育振興基本計画の理念をえびの市においても具現化する姿勢を示している。 |
| イ 副題について                                                                                                                                                                      |
| 【確かな学びの習得】<br>国語科、算数・数学科における当該学年で身に付けるべき学習内容の習得                                                                                                                               |
| 【活用する力】<br>身に付けた学習内容を生かし、相手に分かりやすく伝える技能を身に付け、根拠となる資料や図表等を用いながら効果的に伝え合う力                                                                                                       |

### 2 確かな学びが身に付く指導の在り方

学力向上を図るうえで欠かせないことの中に、「授業力向上」が挙げられる。その中でも授業の流れや「児童・生徒の思考の跡を残す板書」と「児童・生徒の思考を促す発問」が重要であると考えた。そこで、板書と発問に関わる教職員の実態を把握し、構造的な板書の構築や児童の実態に即した発問の開発を行うこととした。

#### (1) 板書と発問に関わる教職員の实態

えびの市内の小中学校8校の教職員を対象としたアンケートを実施した。「めあて」については、小・中学校ともに、ほとんどの授業で提示されていた。しかし、「まとめ」については、小学校では、ほとんどの授業で提示されており、中学校では約半分の授業で提示されているという実態がわかった。

「教材研究の際に、板書や発問の計画を立てているか」という質問に対しては、「十分ではない」という回答が75%も見られた。また、「一単位時間の授業は予定通り終わるか」という質問に対しては、「時間が足りないことが多い」という回答が34%であった。

これらのことから、教材研究において板書と発問の計画が十分ではないことから、時間が足りないととらえることができる。本研究によって板書計画や発問の視点を明確にし、精選することで、一単位時間の授業も充実でき、児童・生徒の理解や思考につながるのではないかと考える。

また、授業の終末段階の時間確保にもつながり、学習内容の定着や習熟の時間にも活用できることが期待される。

## (2) 構造的な板書の在り方

児童・生徒の理解につながる「分かる板書」、学習の流れが見える「見える板書」、みんなで授業のねらいへと追求するための「つくる板書」の3つの板書の働きを生かす板書のスタイルとして板書の構造化を図った。

### ア 国語科における板書の構造化

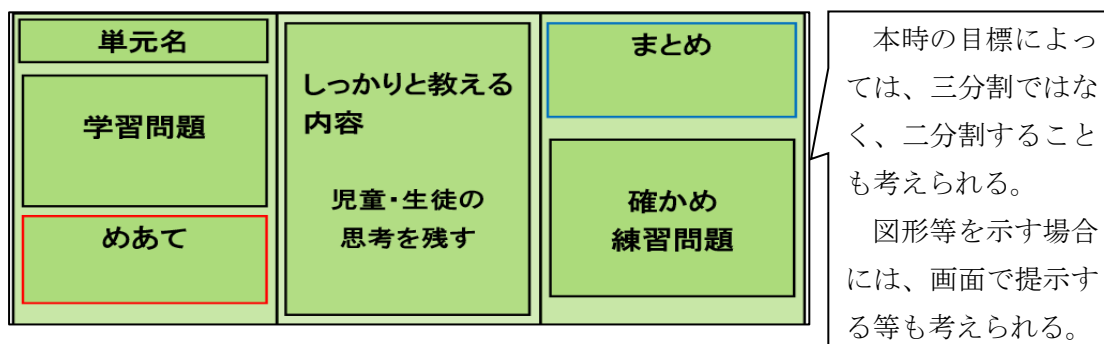
国語科においては、【図1】のように示すこととした。「めあて」と「まとめ」を配置したり、「調べる」「深める」場面では、児童の発言をもとに思考の跡を視覚化したりすることとした。



【図1「構造的な板書(国語科)」】

### イ 算数・数学科における板書の構造化

算数・数学科においては、【図2】のように示すこととした。国語科同様に、「めあて」「まとめ」を配置し、思考の跡を視覚化することとした。三分割することで、児童・生徒の思考の跡を中央部やまとめの前に配置するようにした。



【図2「構造的な板書(算数・数学科)」】

### ウ 板書のポイント

学年や板書内容に合わせて、目安となる適切な文字の大きさや色を設定した。様式を以下の【表1】、【表2】に示す。

|            |           |
|------------|-----------|
| 小学校低学年     | 12cm×12cm |
| 小学校中学年     | 10cm×10cm |
| 小学校高学年・中学校 | 8cm×8cm   |

【表1「目安となる文字の大きさ」】

|       |          |       |         |
|-------|----------|-------|---------|
| 白     | 黄        | 赤     | その他の色   |
| 授業の流れ | 児童・生徒の発言 | 重要な言葉 | 文字以外の図等 |

【表2「文字の色と使用方法」】

### (3) 発問の開発

#### ア 発問の視点設定

文部科学省では、「発問とは子どもの思考・認識過程を経るもの」と定義されている。これまでの授業においては、発問が計画的ではなく、「なぜ、そう思ったの？」など児童・生徒の反応を意識していない場面が見られた。そこで、「5W1H」を意識した発問の視点を設定し、児童の反応を具体的に予測できるような発問計画を立てることとした。【表3】

|   |       |       |                     |
|---|-------|-------|---------------------|
| ① | What  | 何     | 言葉や計算の意味を問う場合       |
| ② | Where | どこ    | その理由や根拠、背景を問う場合     |
| ③ | Who   | だれ    | 立場や視点を定める場合         |
| ④ | Which | どちら   | 判断やその理由や根拠を問う場合     |
| ⑤ | Why   | なぜ    | 解決方法や思考をたどる場合       |
| ⑥ | How   | どのように | 学習内容を踏まえて、考えをまとめる場合 |

【表3「発問の視点」】

#### イ 思考を深め、活用につながる発問の開発

【表3】を意識し、児童・生徒の実態や授業の各段階に応じた適切な発問を選択することで、思考を深めるために、より効果的な発問になると仮定した。そこで、検証授業では【表4】のような発問を行った。

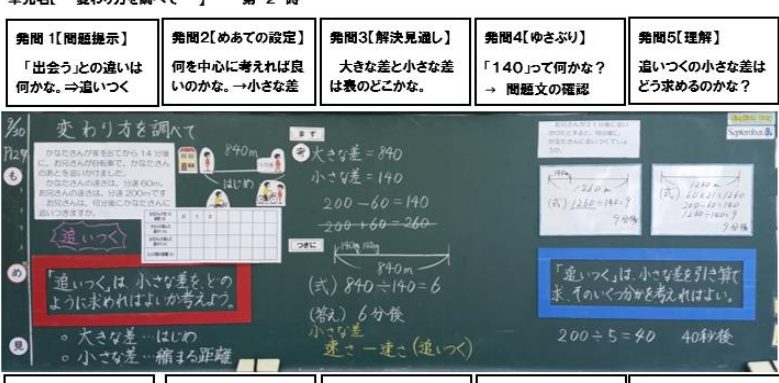
| 段階 | 発問            | 検証授業での発問例                 |
|----|---------------|---------------------------|
| 導入 | 興味・関心を引き出す発問  | 「出会う」との違いは何か。(What)       |
|    | 問題点を明確にする発問   | 何を中心に考えれば良いのか。(What)      |
| 展開 | 思考を深める発問      | 大きな差と小さな差は表のどこかな。(Where)  |
|    | ねらいに迫る発問      | 「140」って何か。(What)          |
| 終末 | まとめるのにつなげる発問  | 「追いつく」の小さな差はどう求めるのか。(How) |
|    | 練習や応用・発展を促す発問 | もし表がなくても、求められるかな。(If)     |

【表4「各段階に応じた発問の類別と発問例」】

### (4) 板書と発問を関連させた授業計画

板書を構造化させるとともに、授業の流れや児童・生徒の思考に沿った発問を計画できるようにシートにまとめることとした。【図3】

授業研究会においては、この計画で確認しながら授業を検証できるようにした。また、日々の授業においても計画シートを利用することとした。

| 単元名【 変わり方を調べて 】 第2時                                                                  |                                    |                                 |                                     |                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|
| 発問1【問題提示】<br>「出会う」との違いは何か。⇒追いつく                                                      | 発問2【めあての設定】<br>何を中心に考えれば良いのか。→小さな差 | 発問3【解決見通し】<br>大きな差と小さな差は表のどこかな。 | 発問4【ゆさぶり】<br>「140」って何か？<br>→ 問題文の確認 | 発問5【理解】<br>追いつくの小さな差はどう求めるのか？ |
|  |                                    |                                 |                                     |                               |
| 【主となる手立て】<br>表(変化する量)<br>大きな差 小さな差                                                   | 【めあて】<br>「追いつく」は、小さな差をどうすればよいかな。   | 補助発問【解決方法】<br>大きな差は、小さな差のいくつかな。 | 発問6【理解の深化】<br>表がなくても、求められるかな？       | 【まとめ】<br>追いつくは、何と何を考えればよいのか。  |

【図3「板書と発問の計画シート」】

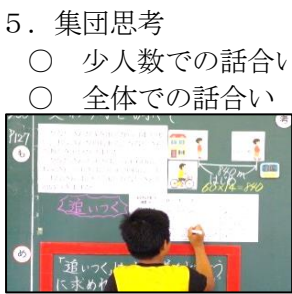
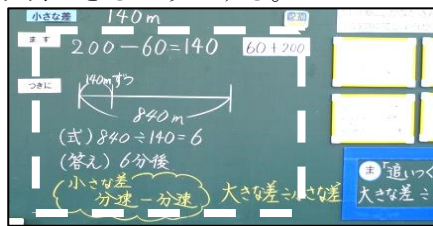
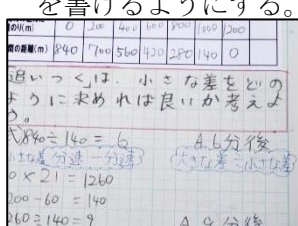


(5) 検証授業Ⅰ 第6学年算数科「変わり方を調べて(1) 変わり方のきまりを見つけて」

【授業仮説】

変化量を示す表や変化の様子を板書したり、大きな差が小さな差のいくつ分に当たるかを発問したりすることで、個人思考や集団思考を深め、問題解決を図ることができるであろう。

【学習指導過程・児童の様子】

| 段階          | 主な学習活動及び内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 準備等                   |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| つかむ<br>(7)  | <p>1. 題意の把握</p> <p>かなたさんが家を出てから14分後に、お兄さんが自転車でかなたさんのあとを追いかけてきました。かなたさんの速さは、分速60m、お兄さんの速さは、分速200mです。お兄さんは、何分後にかなたさんに追いつきますか。</p> <p>2. めあての設定</p> <p>「追いつく」は、縮まる距離をどのようにして求めればよいか考えよう。</p>                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 問題文<br>挿絵<br>表<br>問題文 |
| 見通す<br>(3)  | <p>3. 自力解決への見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大きな差(はじめ2人の距離)</li> <li>○ 小さな差(1分毎に縮まる距離)</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習事項の「はじめの距離を大きな差、縮まる距離を小さな差」を確認することで解決方法の見通しをもてるようにする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                    |                       |
| 考える<br>(20) | <p>4. 個人思考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Aさんが14分歩いた道のり</li> <li>○ 1分間あたり縮まる距離</li> </ul> <p>5. 集団思考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少人数での話し合い</li> <li>○ 全体での話し合い</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表からきまりを見つけることで、小さな差を使って問題を解決できるようにする。</li> <li>○ 図を板書することで、式や言葉を関連させて説明できるようにする。</li> </ul>                                                                                       | 線分図<br>表              |
| 深める<br>(10) | <p>6. 類似問題での思考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 21分後に追いかけた場合</li> </ul>  <p>7. まとめ</p> <p>「追いつく」の小さな差は、ひき算で求め、そのいくつ分かを考えればよい。</p>                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 板書の黄色文字で書かれた解決のポイントを振り返ることで、自分の言葉でまとめを書けるようにする。</li> </ul>  <p>小さな差は、二つの速さの差(ひき算)で求めます。</p>  |                       |
| 確かめる<br>(5) | <p>8. 練習問題</p> <p>1周400mの運動場をAさんとBさんが2つの場所からスタートします。Aさんは秒速10m、Bさんは秒速5mで走ります。Aさんは、Bさんに何秒で追いつけるでしょうか。</p> <p>9. 学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容を振り返り</li> </ul>                                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 類似問題に取り組むことで、解決方法への理解を深め、自力解決による習熟を図ることができるようにする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                          | ○練習問題                 |

【成果】 ○ めあてにおいて、変化する量を焦点化したことや学習のポイントを黄色文字で示したことで、学習のまとめへと効果的につなげることができた。

○ 「『140』って何?」のように、計算の意味を問う場合に効果的な「What」を使用した発問をしたことで、児童は立式の理由や根拠を示しながら説明でき、思考が深まった。

【課題】 ● 表を全員で完成させた上で変化量について思考させると、表をもとに図や式と関連させて思考することにつながり、本時のねらいにもっと迫ることができたと考えられる。

### 3 確かな学びを生かす活用の在り方

#### (1) 全国学力調査結果分析による実態把握

えびの市の児童・生徒の学力の実態を客観的に把握するために、平成28年度までの全国学力調査におけるえびの市内の児童・生徒の分析結果を参考に、課題を表5のように示した。

| 全国学力テストにおける結果分析から見えた課題                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |            |   |       |   |             |   |             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|------------|---|-------|---|-------------|---|-------------|
| 国語科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 算数・数学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |   |            |   |       |   |             |   |             |
| <p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 目的に応じて必要となる<u>情報を取り出し、それらを関係付けて読むこと</u>（小・中）</li><li>● 文章全体の構成や表現の工夫をとらえること（小）</li></ul> <p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● <u>根拠を明確にしたうえで発言すること</u>（小）</li><li>● <u>根拠として取り上げる内容を正しく理解したうえで活用すること</u>（中）</li></ul> <p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 調べて分かった事実に対する自分の考えを<u>理由や根拠を明確にして書くこと</u>（小）</li><li>● 文章や資料から<u>必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと</u>（中）</li></ul> | <p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 図を観察して数量の関係を理解したり、数量の関係を表現している図を解釈したりする<br/>・ 図から必要な情報を取り出す</li><li>● <u>必要な情報（図形の長さ、性質等）を取り出して答えを求めること</u></li><li>● <u>根拠となる事柄を過不足なく示し、判断の理由を説明すること</u></li><li>● 基準量、比較量、割合の関係を捉え、基準量を求めること</li></ul> <p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 予想した事柄や事柄が成り立つ理由、問題解決の方法を<u>数学的な表現を用いて説明すること</u></li><li>● 理由の説明、グラフを用いて方法を説明すること</li><li>● 方針を立てて、<u>証明を書くこと</u></li></ul> |   |            |   |       |   |             |   |             |
| 27年度及び28年度えびの市児童・生徒の課題                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |            |   |       |   |             |   |             |
| <ul style="list-style-type: none"><li>● 目的や意図に応じ、記事に見出しをつけること</li><li>● 目的に応じ<u>文章と図を関係付けて読むこと</u></li><li>● <u>文章と図を関係付けて、自分の考えを書くこと</u></li><li>● <u>目的に応じて必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと</u></li><li>● 課題を決めて、それに応じた情報を集める</li><li>● 登場人物との行動を基にして、場面の移り変わりをとらえること</li></ul>                                                                                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"><li>● 基準量、比較量、割合の関係を捉え、基準量を求めること→逆思考で解いて求めること</li><li>● 根拠を見出し、言葉と記号を用いて記述すること</li><li>● <u>数学的な表現を用いて説明すること</u></li><li>● 性質をもとになぜなのか<u>記述すること（理由を書く）</u></li><li>● <u>問題や図から必要な情報を取り出して求めること</u></li><li>● 関係付けて事象を考察し、その特徴を的確にとらえること</li></ul>                                                                                                                                                            |   |            |   |       |   |             |   |             |
| 課題のキーワード                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |            |   |       |   |             |   |             |
| <ul style="list-style-type: none"><li>■ 目的に応じて必要な情報を取り出す</li><li>■ 文章と図を関係付ける</li><li>■ 選択した理由や根拠を明確にする</li><li>■ 教科の特性に応じて自分の考えを書く（説明する）</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 問題や図から必要な情報を取り出す（関係付ける）</li><li>■ 事柄が成り立つ理由や根拠を明確にする</li><li>■ 数学的な表現を用いて説明する</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |            |   |       |   |             |   |             |
| 国語、算数・数学に共通する課題のキーワード                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |            |   |       |   |             |   |             |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <table><tr><td>1</td><td>必要な情報を取り出す</td></tr><tr><td>2</td><td>関係付ける</td></tr><tr><td>3</td><td>理由や根拠を明確にする</td></tr><tr><td>4</td><td>考えを書く（説明する）</td></tr></table>                                                                                                                                                                                                                                                                           | 1 | 必要な情報を取り出す | 2 | 関係付ける | 3 | 理由や根拠を明確にする | 4 | 考えを書く（説明する） |
| 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 必要な情報を取り出す                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |   |            |   |       |   |             |   |             |
| 2                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 関係付ける                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |   |            |   |       |   |             |   |             |
| 3                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 理由や根拠を明確にする                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |   |            |   |       |   |             |   |             |
| 4                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 考えを書く（説明する）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |   |            |   |       |   |             |   |             |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |   |            |   |       |   |             |   |             |

【表5「全国学力調査結果から見えるえびの市の児童・生徒の課題」】

表5に掲げた4つの課題を「共通する課題のキーワード」として、本市の教職員に示し、常に課題意識をもった教材研究ができるように啓発を行った。また、授業改善としての具体的な取組をとおして、課題が解決できるような手立てを講じることにした。

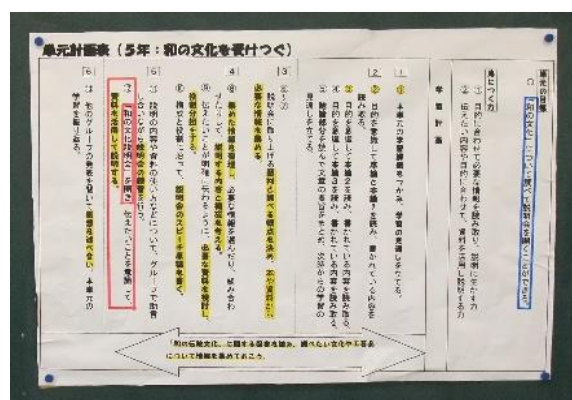


## (2) 確かな学びを生かす活用する力の具現化

### ア 単元のゴールを明確にする学習計画表の作成

活用する力を高める授業の在り方を追求するために重要なことは、学習のゴールを示し、解決すべき課題を意識しながら、常に学びに生かしていくことである。

そこで、学習計画表を使って、児童が見通しをもてるようにし、学んだことを活用して、どのような学習や活動を展開すればよいか具体的に示した。【写真1】



【写真1 「学習計画表」】

### イ 根拠を明確にして、自分の考えや意見をもつ活用場面の設定

本市の児童・生徒の課題4「自分の考えを書く・説明すること」の原因や背景に、「なぜそう思うのか。」という問いに対する理由や根拠を示せないことがある。それが、自分の考えや意見に自信がもてないことにもつながっていると考えられる。(児童・生徒の課題3「理由や根拠を明確にすること」)

そこで、授業において「理由や根拠を明確にする発問」を行い、「～だから、〇〇である。」と理由や根拠を示すことができるよう意識的に手立てを講じた。また、考えを書く時間や話し合いの場を設定し、時間の確保を行うこととした。(P9検証授業 参照)

## (3) 授業の終末段階における「まとめ」を使って活用する力を高める工夫

### ア 「まとめ」を自分の力で書き、学びを振り返る場の設定

本市の児童・生徒の課題1, 2「目的に応じて必要となる情報を取り出したり関係付けたりすること」ができるためには、課題解決に向かって自分の考えを書いたりまとめたりする思考の過程が必要である。そこで、学習課題となる「めあて」に対する「まとめ」を自分の力で書くことを通して、その力を高められるのではないかと考えた。

指導研究班が進めている「構造的な板書の工夫」をもとに、重要語句等を簡潔にまとめ、終末段階で重要なキーワードを取り出しながら、本時の「まとめ」を自分の力で書く場を設定した。その際、「まとめ」を書く活動を児童・生徒の実態や発達段階に応じてスモールステップで指導できるように、指導の手順を【表6】のように整理した。

|   |                                        |
|---|----------------------------------------|
| ① | 教師と一緒に「まとめ」を書き、読み上げながら、本時の振り返りを行う。     |
| ② | 「まとめ」の大事な部分を空欄（括弧書き）にして書く。             |
| ③ | 「まとめ」の前半部分は、教師と一緒に書き、後半部分は自分の力で書く。     |
| ④ | 「まとめ」に入る語句を複数提示する。(例)「〇〇のキーワードでまとめます。」 |
| ⑤ | 字数を制限して考えや意見をまとめる。(例)「〇字以内でまとめます。」     |

【表6 「発達段階に応じたまとめの在り方」】

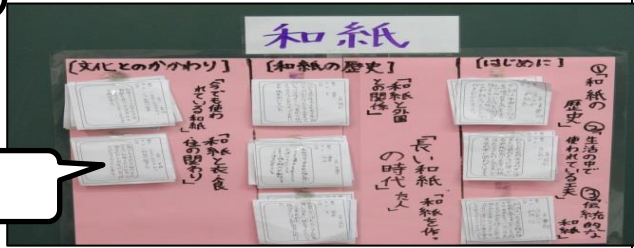
(4) 検証授業Ⅱ 第5学年国語科「和の文化について調べよう～和の文化を受けつぐ～」

【授業仮説】

カードに書いたものを操作する活動や伝えたい情報の順番をつける活動を取り入れることで、情報をまとめたり、関係づけたりすることができるであろう。

【学習指導過程・児童の様子】

◎は評価 アンダーライン・□は活用場面

| 段階           | 主な学習活動及び学習内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 指導上の留意点・児童の様子                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 準備                |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 導入<br>(5)    | 1 前時までの学習を振り返り、本時の学習を確認する。<br>○ 集めた情報の関係付け<br>○ 観点ごとの伝える内容の決定<br>○ 理由をつけての説明<br>2 本時のめあてをつかむ。                                                                                                                                                                                                                                                        | ○ 題材や観点を班ごとに確認し、前時までの学習を振り返る。<br>○ 単元計画表を常時掲示しておき、本時の学習の見通しをもたせる。<br><div>集めた情報を整理して、説明する内容を考えよう。</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 単元計画表             |
| 展開<br>(30)   | 3 「題材の紹介」について調べた情報を関係付け、伝える内容(2つ～3つ)を決定する。<br>○ 似ている情報の集約<br>○ 伝える内容の決定<br>4 「観点1」について調べた情報を関係付け、伝える内容を決定する。<br>○ 似ている情報の集約<br>○ 伝える内容の決定<br>5 「観点2」について調べた情報を関係付け、伝える内容を決定する。<br>○ 似ている情報の集約<br>○ 伝える内容の決定<br> <div>グループで話し合う</div> <div>伝える内容を決定し、見出しをつける</div> | ○ 題材と観点が書かれた台紙に調べたカードを貼っておく。また、台紙の上でカードを動かしたり付け加えたりすることで思考を可視化しグループで共有させる。<br>○ カードにサイドラインを引き、 <u>似ている情報をまとめさせる。</u> <b>必要な情報を取り出す</b><br>○ 内容を選ぶ時の視点を示し、 <u>伝えたいことの順番をつける</u> ことで、伝える内容を絞りやすくするとともに、 <u>なぜ選んだのか理由を明確にさせる。</u> <b>理由や根拠を明確にする</b><br>○ <u>見出しをつける</u> ことで、伝える内容を短くまとめさせる。 <b>関係付ける</b><br>◎ 集めた情報を整理し、必要な情報を選んだり組み合わせたりして説明する内容を話し合うことができる。 <b>【観察・発言】</b><br> | 台紙<br>カード<br>マジック |
| まとめる<br>(10) | 6 伝える内容を班ごとに発表する。<br> <div>班ごとの発表により情報を共有する</div><br>7 次時の内容を確認する。                                                                                                                                                                                                | ○ <u>題材、観点、内容、その理由を班ごとに発表すること</u> で、本時のまとめとする。 <b>説明する</b><br>○ 次時は発表に使う資料の検討と構成を考え、発表の役割分担をしていくことを伝え意欲付けにする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 実物投影機             |

【成果】○ 調べたカードを意図的にランダムに見せたことで、分類及び整理する必然性が出てきたので、学習課題が明確になった。

○ カードを順番に並べた理由を問うことで根拠を明確にして説明することができた。

【課題】● グループでの説明は活発に行うことができたが、クラス全体で情報を共有する時間が十分にとれなかったため、教師の説明やグループ活動の内容を精選する必要がある。

## VIII 成果と課題

### 1 成果

- 板書の構造化によって、「分かる・見える・つくる板書」の3つの機能を明らかにし、教師がどこに何を書くべきかが精選されたことで、児童のノートにも反映されるようになった。
- 視点を明確にした発問の開発を行うことで、児童・生徒自身が理由や根拠を示しながら、説明できるようになり、話し合い活動や問題解決場面でも主体的に取り組むようになった。
- 本市の課題を端的にキーワードで整理し、共有したことで、児童・生徒のつまづき等を意識した教材研究や授業実践を行うことができ、活用力向上に向けた「分析—教材研究の明確化—授業改善」のサイクルが確立できた。
- 学習の見通しがもてる学習計画の作成や根拠を述べることができるための発問の工夫改善や「まとめ」を書く場の設定により、確かな学びを生かす活用力向上の土台づくりができた。

### 2 課題

- 学力学習状況調査等におけるえびの市の課題を今後も整理しながら、より具体的で効果的な手立てへとつながるように、研究内容の吟味や精選を継続していく。
- 研究1年次でもあり、また、研究実践が研究員のみにとどまっているので、市内全体への周知と実践の蓄積を重ね、変容を客観的に把握していくことが必要である。

### ○ 引用・参考文献

- ・ 板書力は授業力「図解によるビジュアル板書の作り方」 （北海道教育大学 田山修三）
- ・ 授業における基本的な指導技術(発問・板書・ノート指導)はどうあるべきか  
(栃木県教育委員会)
- ・ 小学校学習指導要領解説 （文部科学省）
- ・ 中学校学習指導要領解説 （文部科学省）

### ○ 研究同人

| 役 職  | 氏名（所属）                  | 役 職 | 氏名（所属）                  |
|------|-------------------------|-----|-------------------------|
| 所 長  | 萩原 和範（えびの市教育委員会教育長）     | 研究員 | 斉藤 寿子（えびの市立加久藤小学校教諭）    |
| 主 幹  | 盛満 政仁（えびの市教育委員会主幹）      | 研究員 | 山之口 忍（えびの市立真幸小学校教諭）     |
| 指導主事 | 肝付 正籍（えびの市教育委員会指導主事）    | 研究員 | 福田 拓朗（えびの市立飯野中学校教諭）     |
| 指導主事 | 堀 真朋（えびの市教育委員会指導主事）     | 研究員 | 江藤 雅一（えびの市立上江小中学校中学部講師） |
| 主 任  | 川野 裕二（えびの市立岡元小学校教頭）     | 研究員 | 田之上 和寿（えびの市立加久藤中学校教諭）   |
| 研究員  | 塩屋 友珠（えびの市立飯野小学校教諭）     | 研究員 | 橋本 律子（えびの市立真幸中学校教諭）     |
| 研究員  | 鷗野 安洋（えびの市立上江小中学校小学部教諭） |     |                         |